

玄関

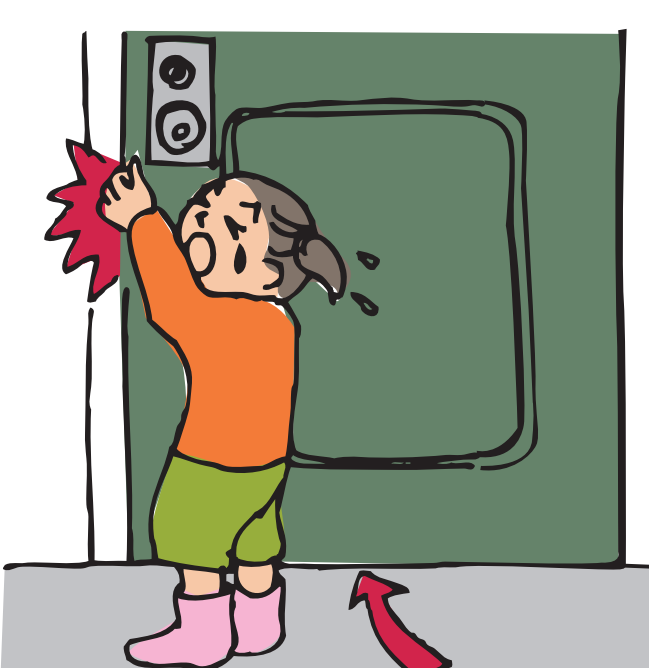
玄関ではドアで手や指をはさんだり、家の床からたたきへ落下したりするなどの事故が多く発生します。特にマンションの玄関のドアは重く、風圧など思いがけない力が加わり、ドアが急に閉まることもあります。お出かけ前や帰宅後はあわただしく、大人の注意もおろそかになりがちです。事故というのはそんな時をねらっておこるものなのです。

よくおこる事故の種類

開いたドアのちょうづかい部分に手をおいて、靴を脱いでいる時にドアが閉まり指を骨折してしまいました。



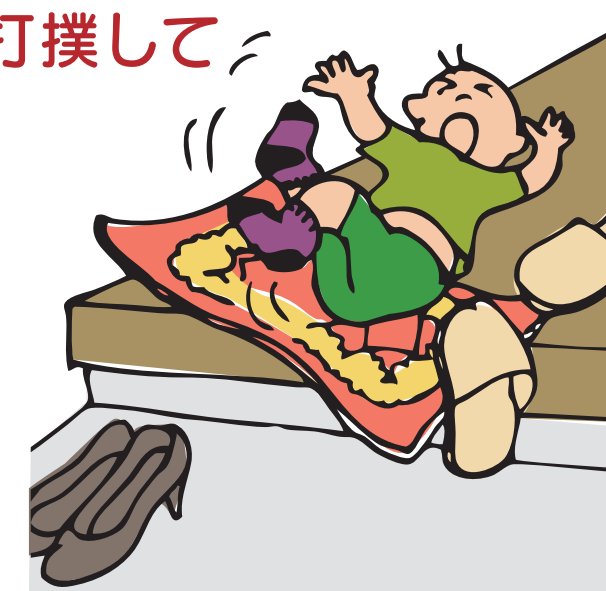
先に上の子が玄関から出た後、ドアが閉まって下の子が手をはさんでしまった。



はさむ

転落

玄関マットですべってしまい、たたきに落ち、胸や腰などを打撲してしまいました。



ハイハイができるようになり目を離したときに、たたきに落ちて頭を打ってしまいました。

事故を防ぐ工夫

1. ドアの指はさみ防止に

ちょうづかい側は牛乳パックや市販のすき間カバーで、取手側はラップの芯を利用して手や指のはさむ事故を防ぎましょう。

2. ドアが急に閉まらないように

ドアクローザーは自動的にドアをゆっくり閉める機能を備えています。

3. 転落のショックをやわらげる

市販のソフトマットやお風呂マットを2枚重ねて敷いておくなど、うっかりの転落事故に備えましょう。

4. 玄関マットを敷く場合はすべり止めを下に敷く

5. 引戸には衝撃をやわらげるクッション材をはる

万一はさんだ場合に衝撃がやわらぐようにクッション材をはります。段差でのつまずき防止には、介護用に市販されている段差解消スロープなどがおすすめです。

6. 靴箱にはロックをかける

靴クリーナー・脱臭剤などは乳幼児の手が届かない場所に片付け、戸棚を開けてしまう場合はロックをしましょう。

階段

赤ちゃんが「ハイハイ」をし始めると、行動範囲はぐっと広がります。さらに「つかまり立ち」ができるようになり、歩き出す時期から階段での転落事故が多発します。子どもが階段を利用する時は、必ず大人が下方で見守るようにしましょう。

よくおこる事故の種類

転落



赤ちゃんの抱っこが慣れていないお父さんが、階段を下りてきて、赤ちゃんが急に動き出したためにバランスをくずしてお父さんとともに転落してしまいました。



ちょっとお母さんが目を離したときに、赤ちゃんがお母さんを後追いし階段までハイハイしてきて2階の階段から落ちてしまった。

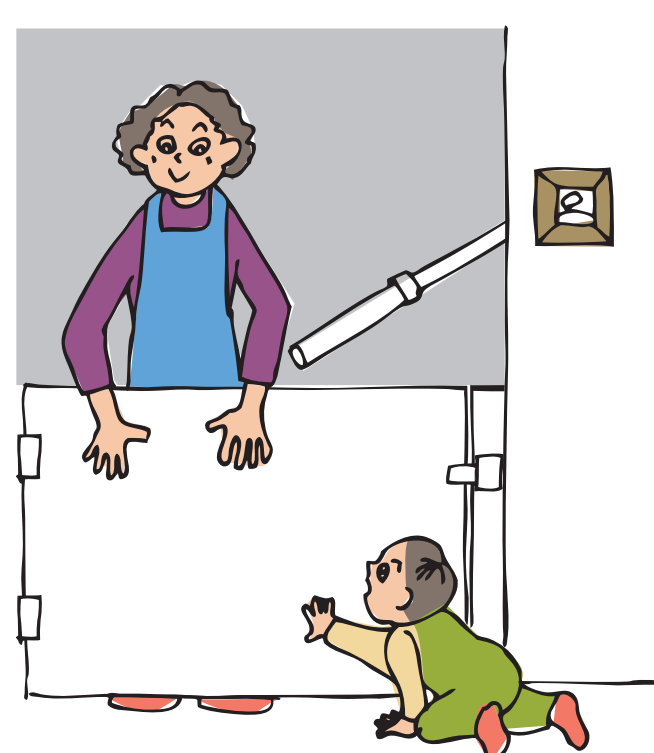


つかまり立ちから歩き出す時期になると自分で階段を上ろうとします。バランスをとることが、まだ、上手ではなく転落してしまいました。

事故を防ぐ工夫

1. ベビーゲートをつける

ハイハイが出来るようになると階段は危険ゾーンです。階段の上下にベビーゲートを付けましょう。また、万一赤ちゃんが階段を使ってしまったら、上り下りの途中で声をかけず、赤ちゃんより下の位置で転落しないようにサポートします。



2. 階段のヘリには滑り止めを

階段は年代を問わず、転倒・転落事故がおこりやすい場所です。滑り止めや手すりを付けておくと安心です。子どもが階段を利用する場合、手におもちゃなどを持っていると足元がおろそかになるので注意しましょう。

